

◎主な研究成果のご紹介

◆キアンコウ資源を持続的に利用するために

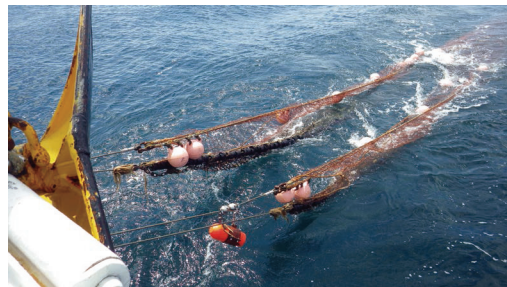
【目的】商品価値の高い大型魚を選択的に漁獲する刺網を開発する。
 【結果】大型魚の漁獲が増え、未成魚の漁獲が減る改良型の刺網を開発した。
 【今後】改良した刺網を普及して資源の維持を図る。



改良した刺網に掛かった大型のキアンコウ

◆ハタハタの来遊資源量を予測するために

【目的】ハタハタの来遊資源量の予測手法を開発する。
 【結果】試験船調査と漁獲物調査による予測手法を開発した。
 【今後】予測結果をハタハタ漁業者に情報提供し、活用してもらう。



試験調査船で用いるトロール網

◆必要なホタテガイ稚貝を確保するために

【目的】陸奥湾において漁業者が天然採苗で必要なホタテガイ稚貝を確保する。
 【結果】天然採苗予報調査を行い、採苗に必要な情報をリアルタイムで漁業者に提供した。
 【今後】海洋環境の変化に対応した採苗指導を行う。



試験採苗器に付着したホタテガイ稚貝

◆生残率や成長の良いホタテガイ養殖を目指して

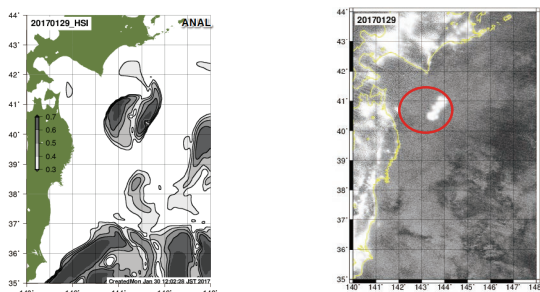
【目的】生残率や成長の良いホタテガイ養殖方法を開発する。
 【結果】ホタテガイの成長及び漁場環境をモニタリングし、へい死の要因解明と軽減対策を行った。
 【今後】へい死率を低減する養殖方法を普及する。



ホタテガイ養殖施設での作業の様子

◆アカイカ釣り漁業の効率化を図るために

【目的】アカイカ漁場予測システムを開発する。
 【結果】システムで予測したアカイカ漁場の海域と実際に漁船が操業した海域が一致した。
 【今後】調査結果をイカ釣り業者に提供し、活用してもらう。



アカイカの分布予測 (左図) とイカ釣り漁船の操業位置 (右図赤丸)

◆ウスメバルの養殖を目指して

【目的】ウスメバルの養殖技術を開発する。
 【結果】全国初となる体重180gサイズのウスメバル養殖に成功した。
 【今後】ブランド力強化に向けた取り組みを実施する。



180gサイズに成長した養殖ウスメバル

◎その他の試験・研究・調査のご紹介

- ◆マグロ、サメなど広域回遊する資源の評価
- ◆イカナゴ、ハタハタ、ヤリイカなどの漁況予測
- ◆マダラ、マコガレイ、ウスメバルの種苗生産
- ◆大型クラゲ等の出現状況調査
- ◆水温や塩分などの海洋観測調査
- ◆ホタテガイ貝毒のモニタリング手法の開発
- ◆マボヤの効率的種苗生産技術開発
- ◆陸奥湾の環境保全調査